

## 「2024年韓国・延世大学校スプリングスクール派遣報告書」

京都大学教育学部1年 岡田 純果

今回の韓国短期留学に参加する前、私は韓国語の学習経験はあったものの、実際に韓国で生活しながら言語を使う機会はほとんどなかった。そのため、語学堂での授業や日常生活の中で韓国語を実際に使う経験ができることを楽しみにしていた。結果として、この派遣を通じて韓国語でのコミュニケーション能力が向上したと感じている。例えば、買い物やレストランでの注文、道を尋ねるといった場面では、自然と韓国語が口をついて出るようになった。また、現地の学生や店員とのやりとりの中で、「韓国語が上手ですね」と言われ、自信につながった。また、国際理解への意欲も高まった。授業では、韓国の歴史や文化、日韓関係についても学ぶ機会があった。共同セミナーでは日本の受験(女子枠)について発表を行い、日韓の教育制度の違いをディスカッションしたりアメリカの入試制度についても当事者から話を聞いたりすることができた。このような経験を通して、自国と他国の制度を比較し、多角的に物事を考える力が養われたと感じている。韓国での生活は、日本とは異なる点が多く、新しい発見の連続だった。例えば、交通機関の利用方法では、日本のICカードのようなWowpassというシステムがあり、最初は戸惑ったが、使い方を覚えると非常に便利だった。また、韓国は地下鉄やバスが京都より整備されていて移動はほとんど公共交通機関で行った。食文化の違いも印象的だった。韓国の食事は全体的に辛いものが多かったり、量も日本より多くて食べきれなかったりしたが、次第に慣れ、キムチやトッポギなども美味しく感じるようになった。特に、サムギョプサルやチキンを食べる際に、現地の人々が皆でシェアしながら食べる文化も特徴的で、一緒にプログラムに参加した人との交流を深めるきっかけになったと感じた。DMZ ツアーでは、南北分断の現実を目の当たりにし、単なる観光ではなく歴史を学ぶ貴重な機会となった。特に、第3トンネルを実際に歩いたことで、南北の緊張関係が決して過去のものではないことを実感した。これまで教科書で学んだ内容が実際の経験を通じてより現実味を帯びて感じられるようになった。今回のプログラムは、語学学習だけでなく、文化体験や現地学生との交流の機会が豊富に設けられていた点が魅力的だった。授業では文法や会話の練習に加えて、韓国の社会問題や教育制度についても学ぶことができ、語学だけでなく幅広い知識を得ることができた。特に、韓国料理を実際に作る授業では、タッカルビを作る体験を通じて、韓国の食文化をより深く理解することができた。

さらに、現地の学生との交流を通じて、韓国の大学生活について知ることができた。延世大学の学生と話をする中で、彼らの語学学習への意欲の高さに刺激を受けた。日本語が堪能な学生も多く、彼らがどのように語学を習得したのかを聞くことで、自分の学習方法を見直すきっかけにもなった。

また、DMZ ツアーや日韓事情の授業を通じて、国際関係や東アジアの歴史への関心が高まった。今回の韓国短期留学を通じて、語学力の向上だけでなく、国際理解や異文化適応力が深まったと感じている。特に、韓国の歴史や社会問題について学ぶ機会が多く、これまで以上に多角的な視点で物事を考えられるようになった。今後は、この経験を生かしてさらに学びを深め、将来的にはより国際的な環境で活躍できるよう努力していきたい。

## 聴講科目の感想

Participating in the discussion on The Stranger felt different from a typical class. What stood out the most was that the students took the lead in the conversation. Rather than simply sharing impressions, everyone brought their own interpretations and exchanged ideas freely. In a regular class, we often focus on listening to the teacher, but by having students take the initiative, I felt more engaged with the work on a deeper level. The teacher's approach was also excellent. Instead of dismissing any opinions, they acknowledged and respected each student's perspective. This reinforced the idea that literary interpretation has no single correct answer and that every reader experiences a story differently. Such an open environment not only helped me develop my own thoughts but also allowed me to learn from

others' viewpoints. However, I found it somewhat difficult to fully grasp the historical and social context of the time, particularly regarding France (Algeria). Since I didn't have much prior knowledge about the period, I struggled to connect some aspects of the story to its real-world background. If there had been more explanation on these points, I believe it would have enhanced my understanding of the novel even further. Despite this, the discussion provided insights that I wouldn't have gained from simply reading the book on my own. Moving forward, I would love to engage with literature in a similar way, as it allows for a richer and more multidimensional reading experience.